

1. 基本情報

- (1) 国名：コートジボワール共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：アビジャン市
- (3) 案件名：第二次日本・コートジボワール友好交差点改善計画
(Projet d'Aménagement de l'échangeur d'amitié ivoiro-japonaise (Phase 2))
- (4) 事業の要約：本計画は、アビジャン市において、日本・コートジボワール友好交差点の第二次計画による同交差点立体交差の双方向化を通じて交通容量の更なる増強を図ることにより、市中心部と郊外とを往来する交通を円滑化させ、もって同国の経済成長の加速化に寄与するもの。

2. 事業の背景と必要性

- (1) 本事業を実施する外交的意義

コートジボワール共和国（以下「コートジボワール」という。）は、西アフリカ経済通貨同盟（UEMOA）経済の 4 割を占める西アフリカ地域の大国であり、西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）経済圏の安定・発展・地域統合の鍵を握るという重要性に鑑み、復興期にある同国への支援を通じ、社会安定、貧困削減、格差是正を行う必要がある。

2014 年 1 月の安倍総理のコートジボワール訪問時に発出された共同声明において、本計画対象交差点（ソリブラ交差点）の高架建設に関する協力準備調査の実施について支援検討を表明しており、本計画は同交差点機能の更なる強化を図るものである。

我が国は、TICADVI の機会に、日本企業の関心の高い西アフリカ成長地域の三重点地域の総合広域開発、都市開発（都市交通の整備等）等の分野において、アフリカ開発銀行との共同イニシアティブ(EPISA)も活用しつつ、約 100 億ドル（約 1 兆円）の質の高いインフラ投資を実施することを表明しており、本計画は同コミットメントの達成に貢献するものである。

2015 年 10 月、安倍総理とヴァルス仏首相との会談後に発出された「アフリカにおける持続可能な開発、保健及び安全のための日仏計画」では、アビジャンをアフリカの持続可能な都市に関する日仏協力のパイロット都市として選定し、日本は運輸・交通、仏は水、衛生、廃棄物処理及びエネルギーを中心に協力を進めていくこととなった。

- (2) コートジボワールにおける都市交通セクター及びアビジャン地域の開発の現状・課題及び本事業の位置付け

本計画は、JICA 開発調査型技術協力「大アビジャン圏都市整備計画策定プロジェクト」（2013 年～2015 年）で策定した「大アビジャン圏都市整備計画」において、「高優先度プロジェクト」（全 16 件）の一つとされている。また、コートジボワール政府が策定した「第二次国家開発計画（2016-2020）」においても、優先計画に位

置付けられている。対象交差点は JICA の開発調査型技術協力「西アフリカ成長リング回廊整備戦略的マスタープラン策定プロジェクト」(2015 年～2017 年)のコンセプトである産業開発の観点から、空港、港、市内、国際回廊を接続するポイントにあり、物流網を支える交通の要衝にあたる交差点であるため、コートジボワール国内だけでなく、マリ、ブルキナファソ、ニジェール等の内陸国に通じる効率的な貨物輸送の実現にも貢献するものである。

(3) 都市交通セクター及びアビジャン地域に対する我が国の協力方針等と本事業の位置付け

1960～70 年代の「象牙の奇跡」時代に整備された道路、鉄道、港湾等のインフラは、コートジボワールを西アフリカ地域内の大国に押し上げたが、1990 年代以降の政治・経済不安を受けて適切な投資・管理がなされなかったため、老朽化、サービスの低下が著しい。また、アビジャン-バマコ回廊、アビジャン-ワガドゥグ回廊及びアビジャン-ラゴス回廊の起点国として、域内の経済成長に貢献するため、広域に裨益する道路、港湾、OSBP 等の回廊インフラの整備を支援することとしている。対コートジボワール共和国国別開発協力方針(2014 年 4 月)においては、重点分野として「経済成長の加速化」の中で、「インフラ整備」(アビジャンの都市インフラ。さらには、同市を基点に国際回廊、港湾等のインフラを整備し、国内及び域内の成長基盤を支える。)が掲げられ、大アビジャン圏の都市インフラ整備を支援する方針としており、本計画は同方針に合致する。

(4) 他の援助機関の対応

ア アフリカ開発銀行 (AfDB) : 本計画対象交差点から北東約 2km に位置する第三橋の建設 (2014 年 12 月完工)。

イ 米国 (MCC) : 本計画対象交差点から南に 1km 先に位置するヴリディ橋を無償で整備する計画がある。

ウ 中国: 本計画対象交差点から南東約 5km に位置するアビジャン-グランバッサム高速道路 (総事業費は約 164 億円。うち約 124 億円が中国輸出入銀行による融資) : 28km の片側 3 車線の高速道路建設。

(5) 本事業を実施する開発政策上の意義

本計画は、コートジボワールの開発課題・開発政策並びに我が国の協力方針に合致し、大アビジャン圏の交差点機能の強化を通じて大アビジャン圏の経済成長の加速化に資するものであり、SDGs ゴール 9 に貢献するもの。

3. 事業概要

(1) 事業概要

① 事業の目的

本計画は、アビジャン市において、日本・コートジボワール友好交差点の第二次計画による同交差点立体交差の双方向化を通じて交通容量の更なる増強を図ることにより、市中心部と郊外とを往来する交通を円滑化させ、もって同国の経済成長の加速化に寄与するもの。

② 事業内容

詳細については、協力準備調査において検討する。

(ア) 施設・資機材の内容：

〔施設〕 2 層目跨道橋の建設（コンクリート PC 橋，幅員 9.7m，全長 645m，アプローチ擁壁 155m）

(イ) コンサルティング・サービス／ソフトコンポーネントの内容：

(ウ) 詳細設計，入札補助，施工監理等。

(エ) 調達・施工方法：労務・資機材調達は必要に応じて第三国調達を行う。

③ 他の JICA 事業との関係

本計画は，開発調査型技術協力「大アビジャン圏都市整備計画策定プロジェクト」（2013 年～2015 年）で策定した「大アビジャン圏都市整備計画」において，「高優先度プロジェクト」（全 16 件）の一つとしている。また，対象交差点は開発調査型技術協力「西アフリカ成長リング回廊整備戦略的マスタープラン策定プロジェクト」（2015 年～2017 年）のコンセプトである産業開発の観点において，空港，港，市内，国際回廊を接続するポイントにあり，物流網を支える交通の要衝にあたる交差点であるため，効率的な貨物輸送の実現に貢献する。なお，本計画の第一次計画として，平成 26 年度無償資金協力「日本・コートジボワール友好交差点改善計画」を実施中である。

(2) 事業実施体制

① 事業実施機関／実施体制

経済インフラ省（Le Ministère des Infrastructures Economiques: MIE）

道路管理公社（L'Agence de Gestion des Routes: AGEROUTE）

② 他機関との連携・役割分担

協力準備調査で確認。

③ 運営／維持管理体制

AGEROUTE が維持管理を行う。第一期計画では，桁の連続化や道路照明等への LED 活用等によりメンテナンスコストの削減に配慮した。また，第一次計画，本計画を含め，年間維持管理費用は道路維持管理予算の約 1%以下と見込まれ，財務面では特段の問題はないと考えられる。

(3) 環境社会配慮

① カテゴリ分類 ☐A ☒B ☐C ☐FI

② カテゴリ分類の根拠：本計画は，「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）に掲げる道路セクターのうち，大規模なものに該当せず，環境への望ましくない影響は重大でないと判断され，かつ，同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

(4) 横断的事項：該当なし

(5) ジェンダー分類：ジェンダー対象外案件

(6) その他特記事項：特になし

4. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

アフリカの橋梁建設事業における評価において，橋梁の維持管理に係る予算を十分に確保することの重要性が指摘されている。第一次計画では，財務面での特段の

問題はないと考えられているが、本計画実施による維持管理予算の確保と維持管理人員の増員の必要性については改めて確認し、必要に応じて先方政府に申し入れを行う予定。

以 上

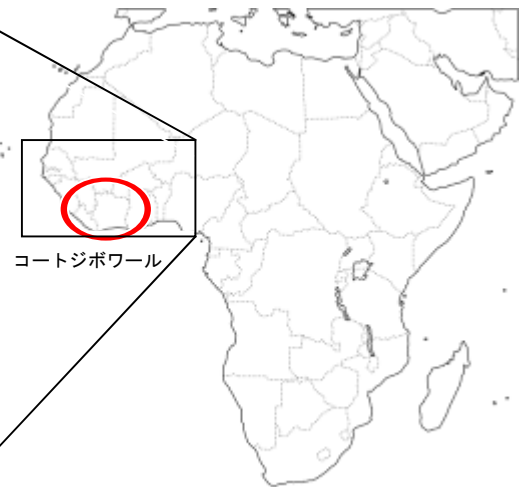
〔別添資料〕地図

[別添資料] 地図

2. 西アフリカ成長リング



1. アフリカ大陸



3. アビジャン市内中心部



4. 第二次日本・コートジボワール友好交差点改善計画

